



民生委員・児童委員の
シンボルマーク

のぼそう愛の手

戸塚区民生委員児童委員協議会



区の花「桜」

H27.9.24発行

**民生委員・児童委員は、誰もが安心して生活できる地域
づくりのために、日々活動しています。**

『のぼそう愛の手』は、戸塚区民生委員児童委員協議会で年に2回発行する会報です。区民の皆さまに私たちの活動についてより深くご理解いただくため、今号から町内会・自治会等で回覧させていただきます。

民生委員・児童委員（以下、民生委員）とは
地域住民の立場にたって
地域の福祉を担うボランティアです。

民生委員は、民生委員法に基づき、厚生労働大臣から委嘱された無報酬の非常勤特別職の地方公務員です。また、民生委員は児童福祉法に定める児童委員を兼ねています。ボランティアとして活動しているもので、任期は3年です。（再任可）

※戸塚区では、約300人の民生委員が18の地区民生委員児童委員協議会に分かれて活動しています。

民生委員は
地域を見守り、地域住民の身近な相談相手、
専門機関へのつなぎ役です。



とつかハートプラン
の Mascot
「ココロん」

自らも地域住民の一員として、担当の区域において高齢者や障害のある方の安否確認や見守り、子どもたちへの声かけなどを行っています。医療や介護の悩み、妊娠や子育ての不安、失業や経済的困窮による生活上の心配ごとなど、さまざまな相談に応じます。相談内容に応じて必要な支援が受けられるよう、地域の専門機関とのつなぎ役となります。

民生委員には法に基づく守秘義務があり、相談内容の秘密は守られます。

主任児童委員とは
子どもや子育てに関する支援を専門に担当
する民生委員です。

主任児童委員は、地区のなかで担当区域を持たず、子育て、不登校、いじめ、虐待など児童に関する分野を専門に担当し、区役所や学校、児童相談所などと連携しながら活動をすすめています。



戸塚区の Mascot
「ウナシー」

お住まいの地域の担当の民生委員を知りたいときは
区役所福祉保健課運営企画係 (866-8418) までお問い合わせください。

ひとり暮らし高齢者「地域で見守り」推進事業等

～戸塚区民生委員児童委員協議会の取組み～

ひとり暮らし高齢者「地域で見守り」推進事業は、平成23年度のモデル地区実施を経て、平成24年度から本格実施している横浜市の事業です。

民生委員は、日ごろより、高齢者の方の相談役として、地域に根付いた活動を行っています。

そこで、当事業では、民生委員が中心となり、区役所の福祉保健センター、地域ケアプラザと連携・協力し、75歳以上のひとり暮らし高齢者の皆様（75歳以上の住民基本台帳上の単身世帯の方）のお宅を訪問し、近況や日常生活上の困りごと、緊急連絡先などをおうかがいする取組みを行っています。

戸塚区におきましても、平成23年度に5地区でモデル実施し、平成24年度からは、全地区で毎年度実施しています。

平成27年度も、ひとり暮らし高齢者の皆様について、戸塚区から民生委員に情報提供を行い、ご本人の意思を確認の上、見守り活動等につなげています。

また、戸塚区独自の取組みとして、区内ひとり暮らしの65歳から74歳までの方に「個人情報提供に関するアンケート調査」を実施し（所管：戸塚区役所高齢障害支援課）、「民生委員、地域ケアプラザへの個人情報の提供を了承」された方について、今後、見守り活動等実施していく予定です。

前川副会長、神奈川県県民功労者表彰、受賞！

戸塚区民生委員児童委員協議会副会長（北汲沢地区民生委員児童委員協議会会長）である前川鶴子さんが、神奈川県県民功労者表彰を受賞されました。

永年にわたり、高齢者や児童等の支援を続け、地域福祉活動を積極的に推進してきた功績が認められたものです。

受賞の言葉

「7月6日に神奈川県庁において、県民功労者の表彰式がありました。

出席者はいろいろな部門から推薦された42名の方々に、黒岩知事さんが、一人一人の席まで出向き、やさしい言葉を掛けながら、賞状を渡して下さいました。

民生委員は、地域の見守り活動と行政等関係機関へつなぐことが大きな役目ですが、これからも地区社協と町内会との連携を図りながら、地域の方々が生きる喜びを感じられるように努めていきます。

永年にわたり、地域福祉に携わられたことは、私自身を成長させていただけたと感謝いたします。」



みんなでつくる みんなの地域 「とつかハートプラン」



地区民生委員児童委員協議会の活動紹介

～汲沢地区民生委員児童委員協議会の七夕まつり～

私達、汲沢地区民生委員児童委員協議会は、汲沢連合町内会、汲沢地区社会福祉協議会と共に、年間行事として、「花見の会」「七夕まつり」「敬老の集い」「ふれあい会食の会」他を実施しています。

今回は「七夕まつり」についての活動を紹介します。

「七夕まつり」は、汲沢地区民生委員児童委員協議会主催、青少年指導員、汲沢連合子ども会共催で、平成19年より開催し、今年で9回目を迎えました。近隣の戸塚こぼと幼稚園の、ご好意により、体育館を開放していただき、地域住民の三世代の交流・親睦の場として、現在に至っています。



今年は、7月4日(土)に開催して、176名(子ども92名・大人84名)の参加となりました。

約2か月前より、民生委員による回覧用チラシの作成から順次、折り紙や文具・子ども達に配るお菓子の詰合せ等を準備、連合子ども会は参加者募集の呼びかけ等を行い、「七夕まつり」前日には、竹林を所有する地域の方の協力を得て、民生委員で孟宗竹6本を伐採し、子ども達の飾り付け用笹竹を、約100本と大竹飾り用を2本準備します。

当日には、青少年指導員、連合子ども会役員の方々も加わり、会場の最終準備を実施。



「七夕まつり」が始まり、最初に参加者全員で大竹2本の飾り付けから行い、親子で折り紙を折ったり、短冊に思いおもいの願いごとを書いて、自分達の笹竹に飾りつけをしています。

又、子ども達が、「ふれあい会食の会」の高齢者の作った折り紙や、小物の吊り飾りの飾り付けをしたり、作り方を教えてもらいながら、一緒に折ったり、和気あいあいと触れ合っていました。

前回より、横浜市立汲沢中学校のVメイト(ボランティアメイト)の生徒14名も参加され、準備と後片づけの手伝いや、子ども達と一緒に飾り付けをして、楽しい一時を過ごし、最後に三世代全員で、「たなばたさま」の歌をうたい終了しました。

飾り付けした大竹2本は、軽費老人ホーム(ベタニヤ・ホーム)と汲沢地域ケアプラザに提供させていただきました。

《新任職員のご挨拶》

本年4月に、戸塚区福祉保健課運営企画係長に着任しました小池道子と申します。

民生委員・児童委員の皆様方には、日ごろから、高齢者、子ども、障がいのある方など全ての方が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、地域福祉の推進役として幅広く活動していただき、本当にありがとうございます。

区民生委員児童委員協議会の事務局として、皆様方が活動しやすいよう、しっかりと取り組んでまいります。

どうぞ、よろしくお願いいたします。



主任児童委員の活動

乳児院 白百合ベビーホーム 施設見学

舞岡地区 金子 直美

市内に3か所ある乳児院のひとつ、白百合ベビーホームは、昨年10月に建て替えられ、広くきれいになった新築の施設を早速見学させていただきました。

常に満床状態のホームには、生後5日目の新生児から就学まで(5~6歳)の40名の子どもたちが職員さんと共に生活しています。

親御さんがいないお子さんや病気など様々な事情で育児のできない状況にあるお子さんを預かっています。

親元から子どもを離すのではなく、最終的には家庭に引き取られるよう、社会復帰を目指し、親にも子にも良い環境を作って、両者をサポートしてくれています。

また、親子ひろばや地域の人たちが集う集会室なども併設され、地域社会とかかわる環境づくりも配慮されています。

24時間体制の見守り、実親のようにかかわり、愛着を持たせるなど、職員の方々の献身的な力添えてベビーホームの子どもたちは日々健やかに成長しています。

乳児院は、全国でも不足している現状ですが、このような施設に助けを求める親子が少なくなることを願い、私たち主任児童委員も地道な活動を続けたいと思います。



主任児童委員の活動～1年を振り返って～

柏尾地区 梶本 泰代

一昨年の12月の委嘱式から、あっという間の1年でもあり、ようやく過ぎた1年でもあったように感じています。

この1年、すべてが初めてづくしで、見るもの、聞くものに深くうなずくことばかりでした。毎月の定例会での情報交換、研修会での専門的な知識の習得、施設見学での施設の重要性や職員の方々の思いなど、発見の日々でした。

また、諸先輩方が子どもたちのために尽力されている姿は、とても勉強になりました。そして、生活スタイルや環境が日々変わっていく中で、今の時代のニーズにあった「子育て支援」活動の重要性を学びました。地域での子育てサークルでは、久しぶりに小さなお子さんの元気に遊ぶ姿を見て、自然と笑顔になり元気をもらっていた気がしています。

そんな日々を送りながら、正直、「これでいいのだろうか？」と不安になることもありました。そんな時、先輩方から、明るく「大丈夫よ！」と笑顔で言っていただき、一步一步前に進むことができたことに、本当に感謝しています。

主任児童委員1年目を終え、この1年の活動がしっかりと頭の中に整理できているかと問われたら、正直なところ疑問符が残りますが、2年目は、新たな学びとともに1年目に学んだことを少しでも生かし、また、諸先輩方にご指導いただきながら、活動していけたらと思っています。

編集後記

平成23.3.11の東日本大震災以降、地震、台風、集中豪雨と土砂災害等の自然災害が増大しているように思われる。

「我が家だけは災害にあわない」という意識は変えざるをえない。

ハザードマップ等で自宅の位置、避難ルートと危険箇所が無いが、いっつき避難場所、要援護者の安全確保、非常時の持ち出し物品(飲料水、非常食、懐中電灯、携帯ラジオ等の最低限の防災グッズ)の整備点検等、高齢者にも周知して行きたい。(林 一郎)

【編集委員】武田 佳子、門井 富士夫、郷原 真理子、林 一郎、廣田 章、
松田 寿子、宮武 祐一

【発行責任者】伊藤 紀子 【事務局】田代 恭一 ☎866-8418